

「英訳マンガから見る英語表現の一考察：『妖怪ウォッチ』を事例として」（『新教育課程研究』第58号、令和7年5月）、1・27頁

「プロローグ」「1 『妖怪ウォッチ』と *Yokai Watch*」 「2 第1話 初めてできた妖怪の友だち！ 「地縛霊妖怪ジバニャン」 「エピローグ」 の順で英語表現について取り上げた。「エピローグ」では「また最近流行りの「ガチャガチャ」も “capsule machine”、 「ハズレ」を “dud”などの英語はいわゆる学校英語ではなかなかお目にかかれないが、会話などではそれこそ普通に使いそうな表現である。小学生が主人公のマンガであるが、英語表現という観点からみれば、中学生あたりが扱いにはふさわしい教材になろう。」としてまとめた。（A5）